

23

武功調査部長殿

軍機

機密第二十一特根第六號三三

自昭和十九年六月一日
至昭和十九年六月三十日

12/12

七月三十一日提出

第二十一特別根據地隊戰時日誌

第二十一特別根據地隊司令部

19.8.9
授受

1905

目次

- 一 經過
- 二 人員、現狀
- 三 令達報告
- 四 參考
- 五 作戰經過概要
- 六 令達報告別紙

1906

124.

一
紙
上

過

1907

敵情

イ米機動部隊中部太平洋進攻ニ伴ヒ出島爪哇方面ニモ敵

機動部隊來襲ニ對シ嚴戒ヒシ處ニ十一日「アングマン」諸島

ホートブレジャーハ敵戰爆連合三十數機ノ空襲ヲ受ケタリ

敵ハ其後印度基地ニ歸投セルモノト判斷セラルルモ當方面

益々警戒ヲ要スルモノト認ム

ロ六月中爪哇島ニ對スル敵機ノ來襲ヲ見ザリシモ「ボスنگ」地

區及「バリック」パンニ飛來セルモノアリ

又敵側放送ニヨレバ濠北空軍ハ我航空機ヲ修理使用シ

前線ニ配備シアリト當方面ニ於テハ敵ノ此種偽瞞手段

ニ對シ特ニ警戒ヲ要アリ

ハ敵潜水艦ハ本月中概テ中部太平洋方面ニ集中シアリタルモノノ如キ

モ月末ニ至リ漸次小スンダ列島線南方海面ニ出現ヲ見ルニ至レリ

1908

三當隊兵力中

196.524
26.5

ハ五日附第一四一防空隊ヲ當隊ニ編入セラル

口第一。ニ海軍工作部ニ於テ整備セル戦利鋼製衣魚雷艇及驅

潜特務艇(引揚船)各一隻。六日附當隊ニ假配屬トナリ夫々

敷島艦礫ト命名。直チニスラバヤ軍港警備ノ任ニ就カシム

ハ十日第三號驅潜艇ハ非島部隊 指揮官ノ指揮ヲ承ケ作戰セ

シメラレ直率部隊ヨリ除ク

ニ第八號掃海艇ハ特令アル迄當隊編入ノ儘トナル

ホ十六日「スフトウエ」島衛所磁氣探知機ノ敷設ヲ完了ス

ハ二十四日第一四號驅潜特務艇ヲ直率部隊ニ編入ス

ト二十四日「シ」電波探信儀第二次試験終了

三作戰指道寸

ハ海上交通保護

1909

126

口 對潜水艦

(一) 夜間避泊ニヨル對潜警戒法ヲ實施ス

(二) 小型輸送船機帆船ニヨル少シク輸送ノ重要性ニ鑑ミ小型船ニ對スル航行管制ヲ特ニ嚴ニス

(一) 夜間「ロ」ボツク海峡ノ水機雷堰突破ヲ企圖ヒル敵潜水艦ヲ捕捉撃滅シ同海峡ノ敵潜通過ヲ遮斷スベク掃特六火發六ヲ以テ第一遊撃隊ヲ編成十三日ヨリ同海峡ノ哨戒ニ向シメタルモ終ニ敵情ヲ得ルニ至ラズ二十七日作戰ヲ終了ス

(補第二號作戰戰鬪詳報參照)

(二) 各港灣ニ敵謀者ト連絡潛入ヲ企圖スル敵潜水艦ヲ急襲撃滅スベク第一遊撃隊ハ四十耗機銃一ヲ裝備セル漁船一隻ヲ以テ漁撈ヲ装ヒテ漂流シ十三日ヨリ「バル」島以東爪哇島南岸並ニ一五度線以西同島東北岸「バリ」島北岸ノ哨戒索敵ニ從事屢々容疑火

1910

尖ヲ發見セルモ敵潜水艦ヲ捕捉スルニ至ラズ二十七日作戰ヲ了シ
JNニ歸投ス、

(目前戦闘詳報参照)

(三)十三日夜爪哇島東北岸並ニバリ島東北岸ニ火光信號ヲシ
キモノ多數認めラレタル狀況ニ鑑ミ同方面謀者ト連絡或ハ
空襲ニ關聯出現ヲ豫期セラル、敵潜水艦ニ近接之ヲ急
襲スベク百五驅特朝日富士ヲ以テ第一掃蕩部隊ヲ編成同
方面索敵セシメ朝日ハ二十一日夜火光信號ヲナセルジヤンク
一ヲ捕捉セルモ敵潜ヲ發見之得ズ

三十日同隊ノ編成ヲ解ク(第一掃蕩作戰戦闘詳報参照)

八對航空機

(一)空襲ニ際シ敵攻撃目標ノ轉換及分散ヲ圖ル目的ヲ以テ各
陸上航空基地ニ偽飛行機其他各種偽瞞施設ヲ整備ス
(二)當隊並第九三三部隊ニテ試作ノ木製偽飛行機十七日完成

1911

127

各航空基地ヲシテ之ガ大量生産ニ着手セシム

(四) 地形及既設ヲ考慮シ滑空砲體燃彈庫兵舎等ニ疑ニタル偽

購施設整備中

(三) 二十五日二一八敵機一乃至二機高度五〇〇〇ニテ「マラン」南岸ヨリ

侵入セシ「ブ」島附近ニテ一回旋回後「クラカ」附近ヲ經テ「ブ」州ニ

入り一ニ五頃「ス」ランガ「半」島ヨリ退避セリ右ハ高度偵

察ヲ企圖セルモノト認メラル爪哇地區ニ對スル今後ノ敵機來

襲ニ對シ警戒ヲ要スルモノアリ

(三) 二十五日三三〇敵四發一機「ビ」ニ來襲五〇〇米ノ低空ヨリ銃爆

撃ヲ散行(投彈數九)セルモ此方地上被害極メテ輕微ナリ

(四) 一日一〇二〇「ビ」丸「シ」ムアン「島」北方ニテ磁氣機雷ニ觸雷セル

ヲ以テ三日迄宙掃海セルモ拘捉ニ得ズ十二日ニ至リテ南海ハ附

近海面ニ於テ觸雷セルモ何レモ損傷輕微ニテ爾後ノ行動ニ支障ナシ

1912

二 邀撃帯設定

(一) 各基地整備状況

(1) 航空基地

(1) スラバヤ第一基地東端滑走路東端張工事完成南北滑走路南端擴張中 偽飛行機五機配備

(2) カマル基地滑走路完成戦闘機ノ晝間離着陸試験ノ結果良好

(3) 其ノ他スラバヤ第二基地滑走路工事ヲ促進スルト共ニ概成

基地ノ飛行機置場掩體ヲ増備スル外附属施設ノ耐弾強

化ニ努ム

(4) 魚雷艇基地

(1) フオラグ灣魚雷艇専用桟橋及居住施設完成耐弾式燃弾格納施設六〇%完成

(2) ビマ耐弾式燃弾格納施設六〇%完成

(3) 其他ノ基地ハ既設施ノ護敵及耐彈強化ニ努ム
 (ハ) ビマ補給中継基地ニ於テ山腹ヲ利用セル耐彈式格納施設ノ構
 築ニ着手

(二) 小艦艇基地

(1) ウエル基地防波堤五〇%完成
 (2) スプル基地防波堤〇%完成
 (三) ストウエー島防備衛所式水中聽音機十個設置換二式磁氣
 探知機八個新設置完了

増築兵舎及附屬施設基礎工事完了

(三) 特設見張所(戊)

(1) 見張所(ケ)アリ州ハニラマン)電波探信儀公試ノ結果普
 通受領ノ哨戒ヲ開始
 (2) 見張所(ス)ラバヤ市南西方)十二號電波探信儀一基移設

完了。附屬諸施設概成。兵器調整及訓練ヲ實施中。

(ハ) 一五見張所十二號電波探信儀一基ヲ十一號ニ裝備換新装。兵器調製及訓練ヲ重不能力漸次向上ニツツアリ。

(ニ) 其他兵器未定ナル豫定ノ見張所ノ基礎工事施行中。

(四) グリセ爆彈置場ノ擴張及ラソン方面ニ於ケル同分散置場工事着エマツラ第二火藥庫及ホロン方面分散置場(イヅレモ山腹ヲ利用セル横穴及自然掩體式)測量實施施着工準備ヲ了ス。

亦教育訓練

(一) 在「ジャカルタ」「チラケマツ」各隊(總)ハ十四日、十五日、西部防衛隊第二次防空通信演習ニ聯合防空通信教練ヲ實施ス。

(二) 十七日第二回初任下士官教育ヲ終了ス(教育終了者一四四名)。

(三) 二十日、二十一日兩日ニ亘リ「スラバヤ」市附近ニ於テ第十三回陸戰教練ヲ實施。敵降下部隊ニ對スル奇襲戰鬥ヲ演練ス。

127

(四) 四月三十日開始ノ補充兵信號術見張術特別教育ハ六月三十日
終了卒業者十八名即日各部ニ配屬ス

1916

四 摩下艦船行動

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
								ヤ																						驅潜一
																														驅潜二
																														驅潜三
																														掃八
																														掃十一
																														掃十二
																														掃一〇
																														驅特一
																														驅特二
																														驅特三
																														驅特四

三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 日

																				一七	十一
																					十一
																					十一
																					十一
																					十一
																					十一
ヤバラス																					十一
																					十一
																					十一
																					十一
																					十一
																					十一
																					十一

一七
十一
十一
十一
十一
十一
十一
十一
十一

武功調査部長殿

官機

機密第二十一特根第六號ノ三五

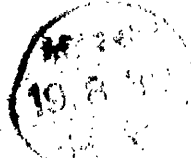
自昭和十九年七月一日
至昭和十九年七月三十一日

八月五日送付

10/12

19. 8. 30

1919



第二十特別根據地隊戰時日誌

第二十特別根據地隊司令部

19. 7.

目次

- 一 經濟
- 二 人員、現狀
- 三 令達報告
- 四 參考
- 五 作戰經過概要
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理
- 八 令達報告別紙

(目次終)

19.7

1920 .

132.

一

經

過

1921

一敵情

先月來印度洋方面ニ策動中ノ敵機動部隊ニ兵力ノ増加
或ハ爪哇方面來攻ノ算大ナル等ノ通信諜報ニ對シスラ
バヤ軍港ヲ始メ各要地ノ艦船ヲ散開ノ上嚴重ニ警告
戒セリ。二十五日早朝敵機動部隊ハ「サパン」ヲ爆撃ス
爾後同部隊ノ行動ハ明確ナラサルモ印度方面基地
ニ級投セルモノト判斷セラル中部大平洋ノ敵進攻作戰
ノ趨勢ニ鑑ミ益攻防兩面ニ對シ嚴重警戒ノ要アリ
只「スング」列島及爪哇東部ニ對スル敵機來襲ノ激
増(七月上旬「スンバ」島九回十九機)ハ敵ノ綿密ナル偵
察行動ト判斷セラル。西濠方面ヨリ發進セル敵機ハ三
日「ピマ」十七、十八、二十一日「スラバヤ」ニ來襲(數機宛)港口
ニ機雷ヲ敷設セリ。港灣閉塞ニヨリ補給路遮斷ノ

1922

他偵察ヲ兼ネ居ルモノト判断ス

ハ敵潜水艦ハ七月上旬「コンボック」海峡南北ニ出現(一隻)
補給路妨害中一隻、飛行機ヲ以テ撃沈ス(十八日未明)
「バウエアン」島北方ニ出現ノ潜水艦(推定二隻)「ハドヤンビ」
丸ヲ襲撃(魚雷十二発中三本命中沈没)後東方ニ遁走
セルモノノ如シ、月末爪哇東北海岸ニ近接ノ潜水艦
ハ謀者揚陸ノ疑アルモ爾後ノ行動不明ナリ

二 我軍ノ情况

一 當隊兵力中

- (一) 三日シ一特設見張所(十號 十二號各一) 完成
- (二) 十日シ〇六特設見張所(十二號一) 完成
- (三) 十五日第一四防空隊ヲ當隊ヨリ削除
- (四) 三十日シ〇二特設見張所(十三號一) 哨戒開始

134.

四 三十一日第九六防空隊^{ヲシテ}スラバヤ^ヲ滞在中
指揮官、指揮ヲ承ケシメラル
第一警備部隊

三 作戦指導
海上交通保護

一 敵機ノ港口機雷敷設ニ對シ、掃海目標ヲ機帆船ノ航
行・西掃海水路・南掃海水路・東掃海水路ト重點
主義ニ逐次速カニ水路ヲ啓開シ輸送力ノ停頓ヲ減少セリ

二 船團ノ偽裝ヲ以テスル對空對潛警戒法ヲ實施ス
只對潛水艦

三 夜間ゴンボック海峡突破ヲ企圖セル敵潛水艦ヲ捕捉
撃滅シ以テ同海峡ノ敵潛ヲ遮斷スベク掃海特務艇
二隻大發三隻ヨリ成ル第一遊撃隊ヲ二月十五日出發手ニテ
六日同作戦ヲ終了セリ (消第三號作戦ノ關詳報参照)

1924

六月二十五日以降「カンゲア」之群島東方海面ニ浮上漁船ヲ砲撃セル敵潜水アルヲ以テ不可龍撃ヲ減スベク第二遊撃隊(四十艇機銃一裝備漁船一隻)ハ漁撈ヲ裝ヒ七月四ヨリ右海面ヲ漂流嚴戒七月二十日作戰ヲ終了セリ

(浦第三號作戰々闘詳報参照)

四七月二日「ニコラス」岬ノ七十七度五哩ニ於テ友軍下機ノ潜水艦ヲ發見セルハ「スング」海峡ヲ突破ノ算大ナルヲ以テ第三遊撃隊(七七艇機銃一裝備、漁船一隻)ハ漁撈ヲ裝ヒ七月十二日出撃「スング」海峡北口方面ヲ漂流嚴戒七月三十日作戰ヲ終了セリ

(浦第三號作戰々闘詳報参照)

四「スング」海印度洋「コンボック」海峡等潜水艦出現ノ算大ナル海面ハ各航空基地ヲ活用零式水偵ヲ以テ嚴戒スルト

共ニ船團ノ前路哨戒ヲ實施ス

四「バウエア」島近海ニ敵潜水艦ノ策動スル疑濃厚ナルヲ以テ第十一掃蕩部隊ヲ編成シ七日ヨリ十四日迄附近海面及島内ヲ哨戒掃蕩、同島ノ現況ヲ調査セリ

(「バウエア」島現況概要参照)

六十二日、十三日各一九〇。ヨリ二三。ノ間「ジョクシヤカルタ」南方海岸ニ於テ敵潜水艇ノ交信セルモノト思ハル、火光點滅セルヲ以テ曉(五六、五噸)ヲ出撃セシメノ嚴戒セリ

八對航空機

四「不製偽飛行機」ヲ大量ニ製作スルト共ニ飛行機、燃彈庫ニ對スル徹底的防護偽購施設ヲ實施セリ

四二日、七日、八日、九日、三十五日、二十六日、晝間「上」空ニ高高度テ侵入(單機或ハ三機)附近ヲ巡回一時間内外ニシテ何レモ投彈ナク北東ニ遁走セルハ偵察ヲ主目的トセルモノト判斷ス

1926

三十七日(五機)十八日(十三機)敵機(四發)晝間高々度ニテ
ザベ海峡上空ヲ北上セリ

(四)十七日(PBY八機)十八日(PBY三機)二十日(PBY數機)

ニニ。ヨリ高々度ヲ以テ「スラバヤ」海峡ニ逐次侵入上空ヲ
旋回約二時間後東方ニ遁走セリ。毎回我地上ニ被寫スニ
モ海峡ニ機雷敷設ノ疑アリ。磁氣並ニ音響機雷
掃海ヲ實施ス。二十四日二十六日磁氣機雷各一個ヲ處分
セルモ三十日第五福丸(一。噸)ハ觸雷(水深八米)沈
没セリ

(五)敵機ノ機雷敷設ニ備ヘ海峡監視艇(十三機銃單
式水中聽音機裝備)ヲ增強スルト共ニ掃海艇驅潛艇
驅潛特務艇ヲ十五日ヨリ二十三日迄(夜間ノミ)配備敵
機邀撃手ニ任セシム

1927

六月十九日「ジヤムア」島（海峽北口）ニ二十五機銃（三聯）三基至反
探照燈（一五〇型）ヲ移装シ敵機邀撃手ニ任セシム
ニ邀撃手帯設定

各基地整備状況
航空基地

（1）スラバヤ第一基地滑走路擴張工事終了、應急滑走路ノ整備ニ着手

（2）カマル基地夜間着陸施設ヲ應急的ニ準備シ夜間戦闘機ニ依ル離着陸試験ノ結果良好

（3）其ノ他各基地ニ對シ無線通信施設標準改定ニ伴フ送受信所位置再調査シ地下式施設ヲ一部着手スル外前月ニ引續キ飛行機置場掩體ノ増強ニ努ム
魚雷艇基地

1928

(1) 各基地兵校橋及居住施設概成、前月ニ引續キ
耐弾式燃弾格納施設ノ整備促進
のプラブアハンラト基地ノ防疫調査開始
(2) 連綴補給基地

スノボリ島ニ於ケル上空遮蔽上屋ヲ除クノ外諸施設概成
(3) 小艦艇基地

スプル基地後橋陸上工事完了、航打ニ着手
防衛衛新

スワトウエト衛新諸施設ニ土盛掩體ヲ完備シ耐弾
防禦強化

(4) 特設見張所(戊)

山既装見張所ニ對シ凡スル機會ヲ捉ヘ訓練ヲ勵行
セシメ八一五見張所十一號電波探信儀ノ探信能力

概ネ所期ニ至ル

④シ。ニ見張所(ブスマ州アゲル)員及兵器到着、基礎工
事ト併行シ現場ニテ調整、訓練月末十三號一基
ヲ以テ探信開始

⑤シ。三(マツラ州スプル)スニ西(スンバワ島バル)及口。四
(コンボツク島バタミロング)各見張所員及兵器到着
シ。六見張所ニ於テ調整及訓練ヲ開始

⑥見張所豫定地ニ於ケル基礎工事施行

⑦ラワン方面爆弾置場(半エ中式)五。%完成爆弾移
送、マツラ島勝利山大藥庫及スラバヤ州南部武陵山
洞窟式軍需品倉庫着工

ホ 教育訓練

⑧ニ日麾下全般ニ爆雷取扱法ヲ指導ス

1930

- (一) 八日魚雷艇ノ發射教練ヲ實施シ發射諸元ヲ檢討ス
- (二) 十五日十七日通信(無線)教練ヲ實施シT.M式短移動無線電信機改二ノ通達狀況ノ檢討關係電信員ノ技倆向上ニ努ム
- (三) 十七日對降下部隊邀撃訓練ヲ實施ス
- (四) 十七、十八、十九、二十七日海上交通保護講習ニ依リ對潛攻撃手法ヲ演練ス
- (五) 二十三、二十四、二十五日小銃及拳銃射撃ヲ實施ス
- (六) 二十三、二十六日特設見張所ノ見張通信(有線)教練ヲ實施ス
- (七) 二十四、二十五日電波探信儀ノ取扱講習ニ參加關係各員ノ技倆向上ヲ計ル
- (八) 二十八、二十九、三十日京部防衛部ノ防空通信講習ニ
 適合防空通信(有線)教練ヲ實施ス

1931

38.

(5) 月光機ノ夜間訓練ニ適合シ電波探信儀ヲ活用スル
照射・射撃ノ綜合訓練ヲ實施ス

1932

139

Ja

三 一	三 一〇	二 九	二 八	二 七	二 六	二 五	二 四	二 三	二 二	二 一	一 〇	一 九	一 八	一 七	一 六	一 五	一 四	一 三	一 二	一 一	一 〇	日
ヤ	バ	ラ	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	日 一
ヤ	バ	ラ	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	日 二
																						日 三
																						日 八
																						日 十一
																						日 十二
																						日 一
																						日 四
																						日 一
																						日 一

摩下艦船行動

1933

三 一	二 〇	一 九	二 八	二 七	二 六	二 五	二 四	二 三	一 二	一 一	一 〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
			面	方	マ	マ	マ	マ	マ	マ		シ	西								
			面	方	マ	マ	マ	マ	マ	マ		シ	西								
			面	方	マ	マ	マ	マ	マ	マ		シ	西								
			面	方	マ	マ	マ	マ	マ	マ		シ	西								
				筋	任							衛	護								

〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇

武功調査部長殿

軍機

機密第二特根第六號ノ

自昭和十六年八月一日
至昭和十九年八月三十一日

九三三送付

第二十特別根據地隊戰時日誌

第二十特別根據地隊司令部

10/12



1935

一 二 三 四 五 六 七 八

經	人	令	參	作	醫	會	令
員	員	達	戰	戰	務	計	達
現	現	報	概	概	衛	經	告
狀	狀	告	考	要	生	理	別
過	過	告	考	要	生	理	紙

目次

(目次終)

1936

181

一
經

過

1937

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

敵情

イ十六日「ザンパン」島失陥更ニ菲島方面ニ迫ラントスル情勢

ニ對シ「ニキキニア」西部ニ進出セル敵ハ其航空兵力ノ展開

ヲ了シタルモノノ如ク本月初頭ヨリ「アシボン」ハルマヘラ

方面ニ對スル敵機來襲頻度急増ス

ロ西部ニ於テハ十一日B29約十機ニヨル「パレンバン」空襲ニ

次ギ二十四日敵機動部隊ハ「バダビ」ニ來襲更ニ當方面

ニ來襲ノ徴アリタルモ月末ニ至リ印度方面基地ニ飯投

セルモノノ如シ

ハ敵潜水艦ノ出現亦漸増シ「マニラ」以南ニ於テ我補給線

遮斷ヲ企圖シアルモノノ如キモ當方面ニ對シテハ主ニ要地

偵察ヲ目的トスルモノノ如ク二十三日及二十九日敵潜水艦一隻

ハ「タリスマス」島ニ砲撃ヲ加フ威力偵察ヲ試ミタルモノト認ム

1938

二我軍ノ情況

イ當隊兵力中

五日。八。一。九防空隊ヲ解隊當隊ニ編入ス

八日第一。四驅潛特務艇ヲ直率部隊ニ復級ス

第八號掃海艇ヲ3KBへ復級セシム

九日第一。四號哨戒艇及第三號驅潛艇ヲ直率部隊ニ復歸ス

シ。ニ時設見張所成(十三號三)完成

十二日第三號驅潛艇及第一。四號哨戒艇ヲ直率部隊ヨリ除キ△IKES

ノ指揮ヲ受ケシム

十四日第一。六號哨戒艇(示成艇)ヲ直率部隊ニ加フ

十五日第二。八號驅潛特務艇當隊ヨリ削除

十八日スンバウ島ノ警備兵力ヲ當麾下ヨリ削除

二十日スラバヤ第三砲臺十二種野戰高射砲四門裝備ヲ了ス

1939

三作戦指導

1. 海上交通保護

第三通信隊當隊編入、口。四特設見張所成哨戒開始
 二十日第一二三號驅潜特務艇ヲ直率部隊ニ加フ
 三十日第九三二部隊〇式水偵六機ヲ令隊ヨリ除キ第九三四部
 隊〇式水偵二機第九三二部隊ヘ編入
 三十一日「スラバヤ」第六砲臺(十二種砲四門)裝備ヲ了ス

(一) 十五日ノ敵敷設機索襪後掃海ニ全力ヲ注グト共ニ船舶ノ
 碇泊時間ヲ局限シ、敵ノ再籠索ニ備フル如ク指導ス
 (二) 當隊担任區域港灣在泊船舶退避ニ関シ陸軍ト協定
 ヲ遂ゲル一方、當隊各部指揮官ニ對シ退避要領ヲ定メ之
 ヲ實施セシム

(機密116命令第三十二號、機密116命令第三十二號参照)

1940

口對潜水艦

(一) 夜間「ロンボック」海峡突破ヲ企圖セル敵潜水艦ニ對シテハ掃特ニ隻ヲ以テ哨戒スルト共ニ〇式水偵ヲ以テ海峡及其ノ南方海面ノ對潜日施哨戒ヲ實施撃滅策ヲ強化セリ

(二) 「バル」島近海ニ出沒セル無通報ノ帆船(十日四隻十四日一隻)ハ暗夜ヲ利用シテ策動スル敵潜水艦ト連絡アルモノト判斷シ第一遊撃隊(舊第二遊撃隊)ハ「セン」島以東爪哇南岸ヲ哨戒索敵奇襲撃滅ヲ期シ十五日「スラバヤ」出撃ヲ二十六日作戰ヲ終了(二七三)。「バル」燈臺ノ南五〇米ニ坐礁セリ

(浦第四號作戰々闘詳報参照)

- (三) 中旬以降「スンダ」海ニ出現セル潜水艦八隻(通信情報四發見三雷跡一)ニ對シ水偵ヲ以テ索敵哨戒ヲ實施セリ
- (四) 對潜水艦戰守則ヲ制定シ關係各指揮官ニ對潜水艦戰ノ

徹底ヲ期セシム

(機密第一警備部隊命令第二三號参照)

八對航空機

(一)十五日二三。双發(PBYノ五)四機「スラバヤ」海峽ニ遂次侵入十六日。一。東方ニ遁走地上ニ被害ナキモ機雷ヲ敷設セリ。音響音及磁氣機雷ノ掃海ヲ實施ニ個處分(磁氣ニセルモ十八日神川丸(機帆船一七二噸)ハ南掃海水路ニ於テ觸雷沈没(水深十五米)セリ)

- (二)二十日ニ。三。西部「シヤワ」ニ來襲セル敵機ハ機影ヲ認メズ機種不明ナルモ專ラ偵察ト判斷スニ二三。遁走セリ
- (三)二十八日一三。口ンボック南岸ニ來襲セル敵機ハ四發一機ニシテ高々度ニテ投彈セズ偵察ト判斷ス
- (四)「スラバヤ」掃海水路敵機ノ機雷敷設ニ備ヘ見張艇二十

隻ヲ増強スルト共ニ砲臺船ヲ水路要點ニ進出散置戒ヲ嚴重ニセリ

(五)「スラバヤ」第三及第六砲臺ニ各十二種野戰高射砲四門ノ裝備ヲ完了セリ

ニ激戰ヲ帶強化
不基地

(四)前月ニ引續キ未成航空基地滑走路及掩體ノ構築ヲ促進各航空基地耐彈無線施設ハ資材ノ注入ト共ニ逐次強化スル外防備施設ノ充實ニ意ヲ用ヒ兵力ヲ以テ據點障地構築、尖杭整備等ニ當ラシム

(三)「スンバワ」航空基地(八月十七日ヨリ 船担任トナル)概成中、以ニ依リ離着陸試験ノ結果良好

(二)「スラバヤ」水上基地夜間離着水面標示燈設置完了

1943

(四) 其他ノ概成各基地ハ逐次資材ヲ注入シテ燃彈格納庫ノ耐彈強化及基地全般ノ遮蔽ニ努ム。ウエル及「スプル」防波堤並ニ棧橋工事進行中。ウエルハ八割、スプルハ四割完成

砲臺

①「スラバヤ」ニ十二種高角砲八門、百ニ工作部内ニ二十五種聯裝機銃四基ノ障地ヲ整備シ据付完了

②「マツラ」ニ十二種高角砲六門ノ障地造成中

③十二種以上ノ平射砲臺全部ニ對シ徹底的耐彈強化工事ニ着手

④「ロンボック」海峽ヲ扼スル平射砲臺二個新造成ニ着手

八防備衛所

「スワトウエ」衛所諸施設九〇%完成

1944

二見張所

(一) シ三見張所工事八〇%完成、兵器ヲ山林麓海岸ニ進
出セシメ探信開始

(二) シ日二見張所施設工事概成、工事ニ要シタル海岸道路
ノ縮少及遮蔽實施中

(三) シ二見張所(シヨクシヤ南方)及シー三見張所(チラチマツ)
工事實施中

(四) シ四見張所(コンボック東砲臺)概成、進出ヲアス

ホ前月ニ引續キ軍需品洞窟式格納庫整備促進

マツラ島勝利山、スラバヤ州武陵山及グリセニ各洞窟

一部 既ニ完成

ホ教育訓練

(一) 日電波探信儀取扱反報告(通報)通信教練ヲ實施ス

- (二) 七日兵補一二三名教育開始
- (三) 九日掃海教練ヲ實施
- (四) 九日十日麾下全般(一部麾下外ヲ含ム)六一四名ニ對シ見張講習ヲ

實施

- (五) 十日補充兵十五名ニ對シ暗號術講習開始
- (六) 十二日予先信號ヲ修得セシメ同競技ヲ實施
- (七) 十五日補充兵三十五名ニ對シ電測術講習開始
- (八) 十八日海軍徵用員八名ニ對スル特別軍事教育開始
- (九) 二十日對降下部隊邀撃教練ヲ實施
- (十) 二十五、二十七日夜間スラバヤ海峽侵入機ニ對スル見張教練ヲ實施
- (十一) 二十七、二十八、二十九日小銃拳銃射撃ヲ實施
- (十二) 二十九日護衛指揮官(艇長)教育トシテ潜水艦々長戰訓

講話

1946

- (三) 三日國民兵教育三九名修了、新二一六八名同教育開始
- (四) 三十日新式水測兵器實地見學取極指導
- (五) 月光機ノ訓練ニ連合シ電探、照射、見張、射撃ノ綜合
 教練實施
- (六) 初級士官二十五名ニ對シ特別教育(期間七日乃至十四日)ヲ
 實施ス

1947

三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	艦下艦船行動
																										驅潜一
																										驅潜二
																										驅潜三
																										掃八
																										掃十一
																										掃十二
																										掃一〇
																										一〇五艦特
																										一〇五艦特
																										一〇四艦特
																										一〇四艦特

三	二	三	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇			
一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇			
											西	方	ア	ヤ	ツ	西																	一七〇	
											ヤ	バ	ラ	ス	西	方	ダ	ン	ス	小													二〇	
											西	方	ダ	ン	ス	小																	三〇	
											西	方	ア	ヤ	ツ	西																	七〇	
											西	方	島	比																			一〇六	